

自動車用トランスミッションを主体にした受託試験事業への取組みがマスコミで紹介されました。新しいビジネス・モデルへ挑戦し、試験装置販売への強化にも繋がって行きます。

2016年8月26日 日刊工業新聞掲載

神鋼造機社長
米谷 剛人氏

神鋼造機（岐阜県大垣市、米谷剛人社長、0584・89・3121）は、自動車用トランスミッション関連試験機を製造し、同試験機での国内シェアは6割（同社調べ）。5月にトランスミッション関連の受託試験も始めた。米谷社長に取り組みを聞いた。

（岐阜支局長・伊藤吉登）

「受託試験事業を始めた狙いは、「トランスミッションは自動車の燃費に深く関わるため、開発競争が激化し、緻密で信頼性の高い評価試験が求められている。品質検証を短時間で、開発スピードが上がる

装置販売まで一貫体制で差別化



点を訴求する。受託試験から装置販売までを一貫して手がけることで差別化につなげる」

「3億円を投じ、幅取り組めますか。」

「3億円を投じ、幅を配置した。排気量4

**新分野に
売って出る**

トランスミッション関連の受託試験

000ccクラスまでの乗用車用トランスミッションの効率や振動、温度変化などを試験できる。関連の歯車やクラッチ、潤滑油の試験まで網羅する。試験データはインターネット経由で即時に送信できる。ウェブカメラを導入しており、海外顧客でも試験時の映像を確認してもらえる」

「受託試験と試験機販売で、どんな相乗効果を狙いますか。」

「受託試験で詳細な試験ニーズを把握し、新たな試験機開発に役立てる。さらに受託試験で、将来試験機販売が見込める中小サプライヤーも開拓する。試験機事業は好調なトランスミッション向けが8割。ここを伸ばし、試験機事業の売上高を2021年3月期に16年3月期比3割増の24億円に引き上げる」

受託試験事業での幅広い要望に対応する自社開発試験機